

ふくろう新聞

<発行>
 特別養護老人ホーム 郷会
 淡路ふくろうの郷会
 広報委員
 洲本市中川原町中川原28番地1
 TEL: 0799-25-8550
 FAX: 0799-25-8551
 ホームページ
<http://www.normanet.jp/hyoufuku/>

去る9月25日〜28日、京都市にある立命館大学産業社会学部石倉ゼミの学生10名がやってきました。目的は、聴覚障害のある入居者の戦時体験の取材です。施設長から概略の説明があったものの、筆談したり、絵を描いたりコミュニケーションに四苦八苦する様子が見られました。学生の皆さまには、今までにない体験から大きな学びが得られたと思います。

の役割をされます。

(相談員 竹原)

戦争を聴きそして 平和をつなぐ講演会



人形ではなく本当の子どもを産みたかった。

平成27年9月6日

(日)にあすてつぷ神戸にてきょうされん第38回全国大会 in ひょうごのプレ企画として、大矢暹施設長と入居者、黒崎時安様、竹邊正晴様、勝楽佐代子様が招かれ、講演を行いました。「戦争を聴きそして平和をつなぐ講演会」というテーマで1時間30分お話をしました。

今年、戦後70年を迎え、戦時中の日本全体が大変な暮らしを強いられる中、聴覚障害をもつ方たちがどのような暮らしをしてきたのか、障害者がどのような扱いを受けてきたのかを、入居者の実体験をもと

お話ししました。

勝楽佐代子さんは、優生思想の政策の下、本当は子どもを2人欲しかったが、夫が断種手術を受けさせられ、子どもを持つことが許されなかったことを語りました。

竹邊正晴さんは、戦争によりろう学校が焼けてしまい、退学せざるを得なくなり、十分な教育を受けることができず、50年間も精神病院に入院をしなければならなかったことを語りました。

黒崎時安さんは、聞こえない自分が生まれたことで父親が母親に暴力をふるっていたこと、また、空襲の中1人で逃げて、家を飛び出し、ヤクザの世界に

引き込まれたこと、刑務所で過ごしたことなどを語られました。

なぜ、このような人生を送らなければならなかったのかを考えると、戦争に突き進む中、兵隊になれない者は必要のないものとして排除され、人権を踏みにじられてきました。戦争を起さないと、平和な社会を守ることが、障害者の人権を守るために大切なことです。戦争を知らない私たちが、先人たちの人生を学び語り継いでいくことが大切なことです。

本番は10月9日(金)、神戸国際会議場です。特別分科会「戦争と災害を語り聞きつなぐ 権利条約と平和」において、レポーター

私たちと一緒に働きませんか？

『入居者の方々の人生に関わるたびにやりがいを感じます
(事務長 橋詰恭子)』

◆職員募集◆

「兵隊になれない
息子はいらん！」
と父が母を責める



第19回全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会

レポートタイトル

11月21、22日に開催される第19回 全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会のレポート報告が集まりました。今年度は、当法人が担当ということもあり、職員一同はりきっており、ふくろうの郷からもたくさんレポートが提出されます。

そのタイトルと要旨を掲載します。

○淡路ふくろうの郷と地域交流会（事務長・橋詰恭子）
 ○長期にわたり向精神薬を服用されていた方の減薬の取り組みから学んだ事（看護師・渋谷裕子、言語聴覚士・齋藤奈奈、管理栄養士・秦奈津子）
 ○竹邊氏のふくろうの郷での10年間を振り返って（星海工

ニット職員・船越愛、山西龍）

○淡路ふくろうの郷でくらしを支える意義（山ユニット職員・和田彩加）

○難聴者の方の周りとの関わり、コミュニケーションの取りかたについての支援（花木ユニット職員・中村久香）
 ○藤本氏の支援を通して（月川ユニット職員・船越健太）

○介護保険制度に係る淡路ふくろうの郷における取組み（事務員・川満和則）



▲100歳になられた土居さんに国から器が、県から銀杯が送られました

独居老人食事会

9月15日の中川原独居老人食事会で、松花堂弁当をみなさんと食べました。



施設見学者の感想

淡路ふくろうの郷では、3月から11月までの間、施設見学の受け入れを行っています。特に、9月から11月には、ろうあ協会・手話サークル・民生委員など、たくさんの方が見学に来られます。見学に来られた方の声の一部をご紹介します。

・黒崎さん、竹邊さんたち入所されている方々のお話が聞けるのを楽しみに来させてもらいました。あらためて一人ひとりを大切にかかわっていくことの大切さ(原点)に気付かせて頂きました。徳島にも必要です。まずはグループホームから…。

（徳島・女性・健聴）

・緊急時等の情報アクセスに困らないよう設備が整っている。入居者のイキイキとした表情が見られ、施設の良さが伝わってきた。見学時間が短く感じ、もっと交流を深めたいと思った。

（徳島・男性・ろう）

互助会交流会

9月16日淡路ふくろうの郷職員互助会交流会を行いました。今回は、「イタリア祭」として互助会委員の手作りによるピザ（トマトのピザ、ツナマヨコーン、もち入り照り焼きチキン）とパスタと（4種類）ペロンチーノが一番人気でした。サラダとスープ2種類、テイラミスを含んで楽しみました。参加者は今年度の新人職員3名を含む27名で、桜ヶ丘のピザ釜で焼いた本格的なピザを堪能しました。

普段ゆっくり話が出来ない職員同士で料理を食べながら、交流を深めることができました。（互助会担当）



第16回

あわじ敬老の集い

日帰り旅行

9月12日(土)に淡路聴力障害者協会主催のあわじ敬老の集い日帰り旅行で京都府美山めぐりに、入居者4名(勝楽様、松崎様、福島様、藤本様)と職員3名で参加しました。京都府の美山かやぶき美術・郷土資料館の見学、山里料理旅館「いそべ」で昼食、美山かやぶきの里で散策、道の駅「ふりーくおおまる」で買い物をしました。特に旅館「いそべ」の昼食献立は山菜小鉢と美山産のゆばと田楽の米茄子と季節の八



▲お祝いの贈呈でにっこり

淡路聴力障害者協会の皆さま、盲ろう者介助者の方々にご協力をいただき有難うございました。(山田)

寸三種盛など美味しい料理をいただきました。昼食後、敬老の祝いで高齢者の皆さんにプレゼントが贈呈されました。入居者の皆様はプレゼントにとっても喜んでいた様子でした。次に、かやぶきの里へ行きましたが広くて遠くまで散策することが出来ず、途中の休憩所で休憩をしました。京都への旅行は遠かったですが、入居者の皆様はとても楽しかったと話されていました。帰りのバスでは良く眠られてしまっただけ、楽しい思い出を持って帰りました。来年も又、旅行があれば楽しく参加させて頂きたいと思っています。

AED講習会

平成27年9月17日に洲本広域消防署の協力を得て心肺蘇生・AED講習を受けました。心肺蘇生法が従来の手順や手技が難しい方法から、とにかく胸骨圧迫ができれば良いというシンプルなる方法に変わったこと、

救急車を呼んでも到着までに全国平均8分、洲本では10分、場合によっては15分以上時間がかかるため、周囲にいる人がかかるととても重要で(バイスタンダー)が適切に対処できることがとても重要であると説明を受けました。少人数での講習会でしたが、聴こえない職員の対応方法など具体的な質問ができ、メールでの119番通報など消防署の方でも検討をしていきたいとお話をいただきました。淡路ふくろうの郷では昨年度5名の入居者にAEDを使用しました。入居者様の急変時、どの職員であっても適切に対処ができるよう、この講習を



▲季節の料理に舌鼓(上)
(下)かやぶき屋根の下で▲



◀ 人形を使って心肺蘇生法を学びます

生かしていきたいと思えます。(言語聴覚士 齋藤奈奈)

**淡路聴覚障害者
センター**
便り

洲本市港2-26
洲本市健康福祉館3階



会場は市会議員と参加者で満席

明石市の条例から学ぼう

現在、淡路市では手話言語条例制定に向け検討が重ねられていきます。今回の4団体(淡聴協・手話サークル・通研・社福)合同学習会は、明石市で4月施行となった「手話言語・障害者コミュニケーション条例」と現在検討されている全国の初めてとなるであろう市の障害者差別解消条例の取り組みから学ぼうと市福祉部障害者施策担当課長の金政玉(きむじょんおく)氏にお話しいただきました。島内各市の市会議員の方々13名を含む74名の参加がありました。

金氏のご自身が車いす使用の障害者であり、長年障害者関係の仕事をして、その後、国の障がい者制度改革推進会議の事務局の仕事に携わってこられました。任期終了後、明石市で「障害当事者」の職員募集の案内を知り応募、昨年5月より現職に就任されています。

手話だけか他のコミュニケーションを含むのか

当初、ろう者団体からは、条例に点字や要約筆記、知的障害者への意思疎通支援が盛り込まれると手話が言語であることがあいまいになるとの危惧する意見が出され、なかなか合意には至らなかった経過があったこと。

様々な障害者の生の声や障害者団体へのヒアリングや説明会を重ね、条例が目的としているのは手話が言語であるということを認め、加えて幅広い障害者を対象とするコミュニケーション条例の制定、最後に条例を有効なものとするための差別解消条例の制定へと繋ぐ3段階構想であることを説明し、納得してもらったとのことでした。

また、条例を政策として推進していくための協議会の設置や、予算措置もなされています。

みんなで学ぼう、考えよう 手話言語条例

4団体合同学習会 於淡路ふくろうの郷 9/23



▲紙芝居を使って話される大矢氏と柏木氏

当事者、支援者の生の声を生かした条例を

現在淡路市では条例制定への意見公募をふまえた最終検討に入っています。ぜひ当事者の生の声を取り入れ、反映させた条例となるように願っています。

「不便」「不安」だけでは解決されない社会問題

午後からは淡路ふくろうの郷施設長 大矢暹氏と淡路聴力障害者協会の柏木さん、上内さんが二人の紙芝居を使って偏見を持たれ肩身の狭い思いをした母親の苦しさ、手話が認められなかったら教育、聞こえないからと資格が生かされない職場での問題などを語られました。聞こえないことは不便、不安だけではない、手話を言語と認めるだ

それって詐欺かも… 騙されないために

第5回社会生活教室 9月21日

兵庫県淡路消費生活センターの谷みよ子氏をお招きし「身近なトラブル注意報」と題して詐欺やトラブルの実態についてお話しいただきました。お話の後、騙されたいの対処法を参加者で確認しました。

強引に勧誘されてもはっきり断ることが大事やね。



けではろう者のこうした問題を解決することはできないと大矢氏は話されます。

条例の制定によって、手話の理解普及と合わせて当事者の人生の中で背負ってきた「社会問題」の解決がはかられていくことが重要です。

人生の紙芝居はその社会問題を分かりやすい形で市民に理解してもらおうためのツールのひとつであり、今後ろう者の問題を様々な機会に広めていきたいと締めくくられました。(楠本)

中川原高齢者・障がい者地域

ふれあいセンター



〒656-0002
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2

玉ねぎ苗作り(種蒔き)

おのころの家

9月28日「今日は玉ねぎの苗を作るために種を蒔きますと言っても初めてなので、みんなと勉強しながら苗作りをしよう」と種蒔き作業が始まりました。

支援員もなかまも苗作りは初めてで、前回は地域の方から苗を寄付していただいて植えました。

そこで事前に南あわじ市のベテラン農家の方に来ていただき、講習を受けたたり、毎日の仲間送迎時に地域の畑で種蒔き作業を見かけたら車を止め様子を見てきました。「あそこはきれいにされとるな」となかまの関心は日々深まっています。

そして種蒔き当日、仲間6人で作業開始。畝を平らに整えて機具で種を蒔く、その上

に糞殻とバーク堆肥(たいひ)を蒔く。散水してカバーをかける。

一連の作業はこれまで地域でみてきたことでなかまは自信ありげな様子でした。作業中、地元の人がやってきて「上手に丁寧にしてやな」と言ってもらいなかまも嬉しそうでした。前回の収穫は総量約7トンで小さいものが多く目標金額には達しませんでした。来年こそ約10トンを目指して育てていきます。上手く種が育ち、よい苗ができるでしょうか？

苗植えは12月上旬、収穫は来年6月上旬の予定です。
(農作業班 藤崎)



中川原地域で苗作りしているなかま

日帰り旅行計画

(利用者会議にて)

毎月定期的に関催されている利用者会議。初回からなかまから「日帰り旅行がしたい!」と意見が出ていました。毎回少しずつ話し合ってきました。9月の利用者会議で具体化していきなりました。「私はUSJに行きたいことがないから一度行ってみよう!」「須磨海浜水族園でイルカショーを見たい!」「近場でええから、みんなと仲良く一緒に美味しいものをいっぱい食べたい!」など意見が出ました。みんなで相談した結果「USJ」と「徳島観光グルメ」になりました。

個々の希望を確認するために、先日「日帰り旅行アンケート」がみんなの手に配布されました。なかま達は、USJに行きたい!徳島もええなあ!どっちも行きたいなく?行かない?と手元のアンケートを見ながらワクワクした笑顔で真剣に悩んでいました。

(支援員 樋口)

ゴーヤの次は、イチゴを植えましよう!!

(デイサービスセンター桜ヶ丘)

暑い夏が終わりました。今年のはゴーヤの実のなりが非常によく、給食で何度もメニューにあげてもらいました。デイサービスの利用者さんは、ご自宅で畑や田の仕事をされてきた方も多く、利用者さんが水やりや肥料やりの世話をしてくださいます。収穫後は、枯れた葉や蔓が巻きついたネットの掃除も手馴れた手つきで皆さんして下さいました。

ゴーヤが終わる頃、「今からイチゴ植えたら、春にみんなで食べれるんちがうか、苗が家にあるから持ってこよ」と、いつもデイサービスに来てくださっている堂内さんからご提案いただきました。早速、月曜日



(竹内)

兵庫県聴覚障害者文化祭に参加して

9月27日(日)に神戸市灘区民ホールにて開催された兵庫県聴覚障害者文化祭に、おのころの家から9名、おのころ屋から3名のなかまたちと一緒に参加しました。昨年に比べるとバザー出店も減り、参加者も少なく感じました。売れるかどうか心配でしたが、なかまが積極的に販売してくれたおかげで、おのころ屋のパン・焼き菓子はお昼過ぎに完成し、おのころの家で製造したにんたまジャムも完売しました。初めて参加されたなかまたちも楽しんでおられ良かったです。(おのころ屋 山田)



続々・地域を語る 中川原むかし話

かるた 口説き

No.14

北 岡 肇

す すもうで

淡路三役入りした

みやこいわ
都 岩

むかし、村むらのお宮さんの境内には、必ずといってよいほど土俵がありました。

そしてお宮さんのお祭りには奉納すもうが取り行われ、島内の力自慢や力士たちが出場して、お祭りを盛りあげ、賑わっていました。その当時のお話です。

中川原村史より紹介します。

○都岩 みやこいわ

幼少より体重人に勝り、力量も強く、育成するにつれ実立派な体格となり、角力も好きで他町村まで宮角力を取りに行ったり、農事の日稼をして生活を送っていたが、某親方の依頼により遂に角界入をしたものだった。

淡路相撲界の三枚まで取組あって、角力場所毎に人気が高まり、牛にまで頭ま

で下げるといいう位、腰が低い、上手ものであった。

相撲興行も六回開催した後、引退あって洲本市内で料理店を開業していたもので、その後病にかかり82歳で死去あり。

また都岩に、お弟子さんがありました。

○若都 わかみやこ

幼年より至つて力量強く、少年時代良く子どもらと角力をとっていたが、身長は四尺八寸の小柄であるが、かずき(角力の一手)の妙手で、遂に都岩大関に弟子入りありて、若都と名乗り角界入りをなし、八両位まで進んだものだったが日支事変勃発により相撲は中止となり、やむなく引退せり。

そのほか、力士の名前をあげますと

○岩蔵関 ○岩の戸

○井手が谷 ○先の山

らが活躍されました。

その時代によく唄われた角力甚句を紹介いたします。

わしとお前は将棋の駒よ

何の桂馬の歩は知らず

金銀使うておくれなよ

私も女房の角じゃもの

盤の上なら王手をさそえ…

9月8日 書道講座



「月見」 長田 道子さん (83歳)

作 品 紹 介

いつもご支援ありがとうございます



香川県の神内さまご夫妻より、作品づくりで使われている布をご寄付いただきました。作品づくりのことも勉強させていただきました。ありがとうございました。

淡路ふくろうの郷で 一緒に暮らしませんか

聴覚障害をもった高齢者がいきいきと生活されている老人ホームです。